

産業別四半期見通し調査結果

(2019年4～6月期見通し)

■ 県内産業天気図

◇ 2019年1～3月期の現況

- ▶ 全17業種中、「晴れ（好調）」がなくなり、「薄日（順調）」が8業種、「曇り（普通）」が7業種、「小雨（低調）」が2業種となった。

◇ 2019年4～6月期の見通し

- ▶ 見通しは、「薄日（順調）」が6業種、「曇り（普通）」が9業種、「小雨（低調）」が2業種となった。方向感では、「やや上昇」が1業種、「横ばい」が11業種、「やや下降」が5業種となっている。

天気図記号	2018年 10～12月期現況	2019年 1～3月期現況	2019年 4～6月期見通し
 晴れ（好調）	2 業種	0 業種	0 業種
 薄日（順調）	8 業種	8 業種	6 業種
 曇り（普通）	5 業種	7 業種	9 業種
 小雨（低調）	2 業種	2 業種	2 業種
 雨（不調）	0 業種	0 業種	0 業種

■ 4～6月期見通しのポイント

- ▶ 製造業では「半導体製造装置」「自動車部品」が「薄日（順調）」を維持するが、「工作機械」「産業用機械」は、「曇り（普通）」になる見通し。
- ▶ 非製造業では、「機械器具卸」が「薄日（順調）」から「曇り（普通）」となる見込みのほか、「ホテル・旅館」は「曇り（普通）」から「薄日（順調）」になる見通し。





































































照 会 先

一般財団法人 長野経済研究所
調査部（担当：桑井、久保田）
TEL：026-224-0501


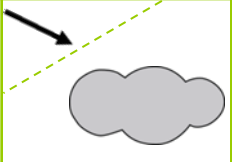
<産業別天気図一覧(17業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。


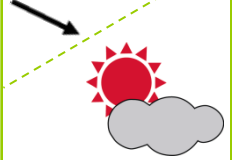
■調査期間：2019年3月中旬～4月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業17業種の126社

業 種	前期 (10～12期)	今期 (1～3月期)	来期 (4～6月期)	
工 作 機 械				
半 導 体 製 造 装 置				
産 業 用 機 器				
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス				
自 動 車 部 品				
光 学 ・ 計 器				
プ ラ ス チ ッ ク 製 品				
飲 料 製 造				
食 料 品 製 造				
機 械 器 具 卸				
大 型 小 売				
自 動 車 販 売				
公 共 工 事				
民 間 工 事				
旅 客				
貨 物				
ホ テ ル ・ 旅 館				


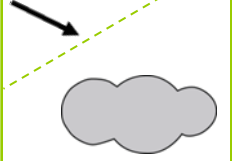
工作機械 : 国内需要は底堅いが海外需要は弱含む見通し

<p>現 況</p>	<p>国内は、半導体関連や電子部品関連の受注が弱含んだものの、自動車関連を中心に需要は順調だった。海外は、米国・中国向けは米中貿易摩擦の影響、欧州向けはイギリスのEU離脱問題やドイツの景況感の悪化などから不確実性が高まり、投資に慎重な企業が増えたため受注は減少した。特に中国では、IT関連やスマートフォン関連が減少した。一方、タイやインドネシアでは自動車関連を中心に順調に推移した。工作機械の基幹部品であるリニアガイド（位置決め装置）等の部品不足は改善がみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>国内は、主力の自動車関連を中心に全体では底堅い需要を見込む。ただ、半導体関連や電子部品関連は引き続き低調な受注となる見通し。海外は、米国・中国・欧州の政治的な問題の解消は見込まれにくく、需要動向は不透明な状況が続く見込み。そのため、引き合いから受注までの期間が長くなることや引き合いの減少などにより受注は弱含む見通し。タイやインドネシアなどの東南アジアでは自動車関連の需要は安定推移する見通し。</p>
	


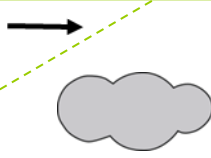
半導体製造装置 : 海外中心に新規受注の減少が懸念される

<p>現 況</p>	<p>国内は、車載用のパワー半導体の生産ラインを中心に設備投資が堅調で、製造装置の受注は安定的に推移した。海外は、スマートフォンの落ち込みや米中貿易摩擦の影響により半導体関連の投資が鈍化し、中国などにおけるデータセンター用サーバー向けのメモリーなども一部で在庫調整に伴う減産が生じた。しかし、自動車やIoT製品向けのセンサーなどは需要が安定しており、関連する半導体製造装置の引き合いは順調に推移した。業界全体では、これまで続いた部品調達難が緩和し、生産遅延に改善がみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>国内は、ハイブリッド車やEVなど自動車の電装化によるパワー半導体の需要増加を背景に、製造装置の受注も堅調な見通し。海外は、スマートフォン需要の減少や米中貿易摩擦の影響が続き、メモリー向け半導体に関する設備投資の先送りが増えると予想される。ただ、自動車やIoT製品に使用されるセンサー向け半導体や、それに伴う素材関連の製造装置は安定した推移が見込まれる。業界全体では、当面は受注残への対応から生産面で高い稼働率を維持するも、海外を中心とする新規受注の減少が懸念される。</p>
	


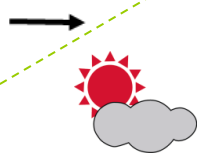
産業用機器 : FA機器の受注は弱含む見通し

<p>現 況</p>	<p>FA機器は、国内は工作機械や産業用ロボット向けの受注があったものの、海外景気の影響を受けて需要の伸びが鈍化した。海外は、米中貿易摩擦の影響やスマートフォンの落ち込みにより中国関連の設備投資が先送りされ、機械需要は伸び悩んだ。車載関連機器は、国内はハイブリッド車やEV向けの受注が順調に推移し、海外は北米向けの受注が堅調だった。冷却装置や空調機器などは、工場設備や機械の更新に伴う受注が底堅かった。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は、リフォームや機器更新などが需要を下支えした。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>FA機器は、国内は自動車関連の製造設備に用いられる工作機械や産業用ロボット向けが底堅い動きが見込まれるものの、全体では弱含むとみられる。海外は、半導体関連などを中心に中国向けの受注が低下する見通し。車載関連機器は、国内はハイブリッド車やEV向けの受注が堅調に推移し、海外も北米向けの需要が下支えとなる見込み。水冷装置や空調機器などは、設備の更新や省エネニーズを中心に底堅い需要が見込まれる。住設機器も設備のリフォームなどにより受注を確保する見通し。</p>
	


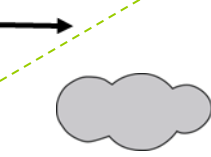
電子部品・デバイス：スマホ向けは前年水準を下回るが、車載用は堅調な見通し

<p>現況</p>	<p>スマートフォン向けは、完成品の普及が進み市場が飽和状態にある中、買い換え需要が弱く、部品受注は減少した。また、半導体関連の製造装置に組み込まれる電子制御部品は、中国における設備投資の先送りなどから、受注は減少した。一方車載用は、一部で減少がみられたものの、国内・海外ともに需要は高い状況が続き、受注は高水準を維持した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>スマートフォン向けは、買い換え需要が弱い中、次期モデルの受注が増加する見通しであるが増加の動きは緩やかで、全体では前年の受注水準には届かない見込み。また、半導体関連の製造装置に組み込まれる電子制御部品も、中国を中心とした設備投資の先送りなどから需要は弱く、受注減少が続く見込み。一方、車載向けは、部品等により状況は異なるものの、総じては高い受注水準を維持し堅調に推移する見通し。</p>
	


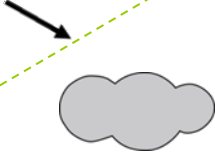
自動車部品：中国の需要鈍化懸念はあるものの、国内外とも受注は堅調見込み

<p>現況</p>	<p>国内は、売れ行きが好調な軽自動車向けを中心に部品受注は堅調だった。海外は、米中貿易摩擦による受注減少が一部みられたが、影響は限定的だった。北米向けは、日系メーカーのスポーツ用多目的車（SUV）などの販売が拡大し、部品受注は堅調だった。東南アジア向けは、タイヤインドネシアで買い換え需要の増加などから新車販売が伸びており、受注は増加した。中国向けは、景気減速による受注の減少が一部みられたが、全体での需要は底堅かった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、軽自動車を中心に受注は底堅く推移する見通し。海外は、北米向けは、新車需要に一服感はみられるものの、スポーツ用多目的車（SUV）を中心に安定しており、受注は堅調に推移するとみられる。東南アジア向けは、引き続き新車販売が伸びていくとみられ、受注の増加が期待される。中国向けは、足元では日系メーカーのセダンが販売台数を伸ばしているなど堅調を見込むが、景気減速による需要鈍化の懸念もある。</p>
	


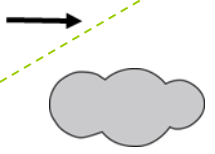
光学・計器：自動車向けは順調、半導体関連は受注の減少が続く見込み

<p>現況</p>	<p>光学機器関連は、スマートフォン向けの部品受注は減少した。また、半導体製造装置などに搭載される光学機器の受注は、中国など海外における設備投資の先送りなどから減少した。一方、事業者用プロジェクター向けのレンズユニットは堅調であったほか、自動車向けは、LEDヘッドランプなどが微増となった。計器関連は、中国・台湾などを中心に半導体製造装置向けは大幅に減少したが、建設機械向けは順調だった。ガスメーターは、国内の取り替え需要から受注が順調だったほか、海外のインフラ向けの生産が安定していた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>光学機器関連は、スマートフォン向けは弱い動きが続く見通し。半導体製造装置向けの光学機器は、引き続き設備投資の先送りなどから、新規の引き合いは少ない状況が続く見込み。一方、プロジェクターのレンズユニットは高輝度の製品を中心に順調が見込まれるほか、自動車向けでは、モデルチェンジの効果などから、LEDヘッドランプなどの部品受注が順調を維持するとみられる。計器関連は、半導体製造装置向けは減少の見込みであるが、建設機械は引き続き順調の見通し。ガスメーターは、国内やアジア向けで順調の見込み。</p>
	


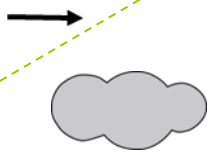
プラスチック製品 : 自動車及び化粧品容器の受注はやや落ち着く見込み

<p>現況</p> 	<p>スマートフォン向けは、次期製品の部品受注が増加したが完成品の買い換えサイクルの長期化等を背景に、既存製品の部品受注は低下し、例年より弱い動きとなった。OA・情報機器は事業用の複合機の需要が安定しており、部品受注は底堅く推移した。自動車関連は受注が減少した部品メーカーもみられるが、総じては堅調だった。容器類は、高品質な化粧品に対する中国をはじめとする海外の需要が強く、化粧品向けの受注が高水準で推移した。</p>
<p>見通し</p> 	<p>スマートフォン向けは、次期製品の受注の増加が見込まれるものの、既存製品の部品受注は引き続き減少が見込まれ、全体では例年の水準を下回る見通し。OA・情報機器は、複合機などの受注が底堅い見込み。自動車関連の需要は、前年に比べるとやや落ち着くものと予想されるが、引き続き高い受注水準を維持する見通し。容器類は、化粧品向けの需要は伸びが鈍化するとみられ、受注はやや落ち着く見通し。</p>


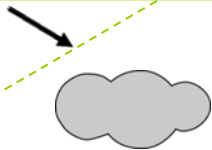
飲料製造 : コスト上昇に対する価格転嫁進むも、厳しい収益環境は続く

<p>現況</p> 	<p>清涼飲料水は、ミネラルウォーターや茶系飲料に加え冬季のホット飲料も底堅く、総じて例年並みの需要となった。果汁・野菜飲料は、昨夏以降の天候不順による原料不足の影響が続き、需要は堅調ながら生産量は伸び悩んだ。清酒は、普通酒を中心に全体的な需要減少が続くも、純米酒などの特定名称酒が安定的に推移した。ワインは、EPA（経済連携協定）により2月から欧州ワインの関税が引き下げられたが、日本ワインの需要は堅調だった。飲料業界全体として、ビンや段ボールなどの資材価格は上昇傾向にあり、収益の圧迫要因となった。</p>
<p>見通し</p> 	<p>清涼飲料水は、気温の上昇に加えて大型連休の効果による需要増加が期待される。果汁・野菜飲料は、需要は堅調ながら、原料不足や調達価格上昇による生産への一層の影響が懸念される。清酒は、生酒・冷酒などの季節商品や改元にちなんだ新商品等を販売し需要の取り込みを図るとみられる。ワインは、欧州ワインとの競合の中、日本ワインの人気銘柄を中心に堅調な需要を見込む。飲料業界全体では、各種コストの上昇に対して一部で価格転嫁が進むとみられるが、上昇分を全てカバーするには至らず、厳しい収益環境が続く見通し。</p>


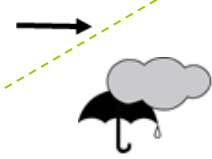
食料品製造 : 健康・簡便を訴求する商品を中心に堅調に推移

<p>現況</p> 	<p>味噌は、即席など簡便な商品や加工用味噌などが堅調だった。製粉は、前年に比べてやや減少傾向で推移した。乾燥食品やコンビニ向け惣菜は、調理が簡単なスープや惣菜など簡便性の高い商品が人気で、生産が増加した。加工肉や大豆関連製品は、健康志向など付加価値の高い商品のニーズが高く、生産は堅調だった。全体として、原材料や資材などの価格が高止まりして収益を圧迫した。また人手不足により、人件費の上昇がみられたほか受注を抑制する動きもみられた。</p>
<p>見通し</p> 	<p>味噌は、即席など簡便な商品を中心に堅調に推移する見込み。製粉は、麺類が需要期に入り生産増加が見込まれる。乾燥食品やコンビニ向け惣菜は、簡便や健康を訴求した付加価値の高い商品を中心に引き続き堅調に推移する見込み。加工肉や大豆関連製品は、健康関連商品を中心に販売の伸びが見込まれる。全体として、原材料や資材などのコスト増加に伴う収益圧迫は引き続き懸念される。行楽シーズンを迎え、今期はGWが10連休になることもあり、土産物需要の拡大が期待される。</p>


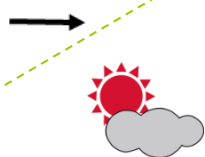
機械器具卸 : 先行きの不透明感から機械需要の減少が懸念される

<p>現 況</p>	<p>工場ラインの省力化ニーズは高く、自動車関連を中心に機械需要は堅調に推移した。学校施設の空調設備設置工事により、空調機器の受注が増加した。機械に取り付ける切削用工具類や金属板等の消耗品受注は、製造業の生産が高水準を維持したことから順調に推移した。配線機器や分電盤などの電設資材の受注は、公共工事の大型案件が少ない中、学校施設への空調設備設置工事が下支えし、製造業の工場新設や一般住宅向けなど民間工事向けは底堅く推移した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>米中貿易摩擦の影響やイギリスのEU離脱問題など、先行きの不透明感から設備投資に慎重な企業が増えることが予想され、機械需要の減少が懸念される。生産活動は減速が見込まれており、消耗品の需要は減少する見込み。電設資材は、民間工事では企業の拠点整備などの設備投資や、民間住宅の建設等により堅調な推移が見込まれ、公共工事では大型案件が少ないものの、学校施設への空調設備設置工事が下支えし、取扱量は横ばいで推移する見通し。</p>
	


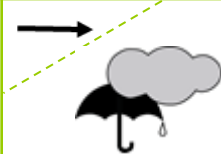
大型小売 : 値上げによる節約意識の高まりから買い控えを懸念

<p>現 況</p>	<p>大型小売店では、例年と比較して降雪量が少なく、暖かい日が続いたため冬物衣料の売り上げが伸びず、食料品も冬の季節商品が振るわなかった。百貨店では、冬物衣料品が低調だったが、バレンタイン関連商品などの催事が好調だったほか、化粧品などが堅調だった。スーパーは、客足に変化はなかったものの生鮮野菜の価格低下が影響し全体的に売り上げは低調だった。小麦粉などの商品値上げにより、消費者の節約意識の高まりによる買い控えもみられ収益環境は厳しかった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>大型小売店では、乳製品などの値上げがあり消費者の節約意識の高まりが懸念されるが、改元や10連休に伴う売り上げ増加が期待される。百貨店では、化粧品が引き続き堅調と見込まれ、改元セールや消費税増税前の催事による売り上げ増加が期待される。スーパーでは、値上げにより消費者の節約意識が高まり、買い控えにつながる懸念され、顧客確保のための価格競争がより激しくなることが予想される。</p>
	


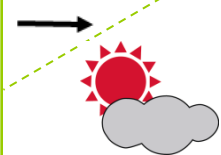
自動車販売 : 安全性能の高い軽自動車を中心に底堅く推移

<p>現 況</p>	<p>一部メーカーに製品不具合などがあり、新車販売台数はわずかに前年を下回ったが、安全性を高めた軽自動車の販売台数は前年を上回った。普通車では、モデルチェンジした車種が好調だった。中古車は、新車販売増加により下取り車も増え、売り上げを伸ばした。輸入車は、スポーツ用多目的車（SUV）などの販売が好調であったが、一部のメーカーで在庫不足や供給遅れがあり、販売台数は前年を下回った。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>衝突防止など安全性能を高めた軽自動車を中心に、底堅い新車需要が続くとみられる。中古車は、新車販売の増加により引き続き下取り車の安定的な確保が見込まれ、販売も底堅く推移する見込み。輸入車は、クリーンディーゼル車やスポーツ用多目的車（SUV）を中心に堅調な売り上げとなる見通し。なお、消費税増税前の駆け込み需要は6月以降を予想しているところが多いが、自動車取得税の廃止といった政府による10月以降の自動車税制見直しなどもあるため、動きは限定的とみられる。</p>
	

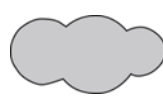
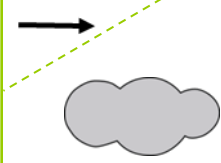
公共工事 : 国発注は工事量の増加が見込めるも、全体では低調な見通し

<p>現 況</p>	<p>国では、三遠南信自動車道関連工事のほか、防災・減災のための土木工事が発注されたが、工事量は平年並みであった。県では、大型の道路工事が発注されたものの、工事量は前年を下回った。市町村では、学校施設への空調設備設置工事が複数発注されたことにより、工事件数は前年を上回ったが、1件当たりの規模は小さく、全体の工事量は低調に推移した。資材価格や労務費は高止まりしており、人手不足は施工管理技術者を中心に続き、改善はみられなかった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>国ではインフラ整備の大型工事が予定されるほか、災害対策関連の予算を増額しており、土木工事を中心に工事量の増加が見込まれる。一方、県や市町村では災害対策関連工事に加えて施設の維持更新などの工事も見込まれるが、大型の案件は少ないとみられ、業界全体としては低調な工事量となる見通し。首都圏を中心に建築資材の需要が強く、資材価格は引き続き高値圏で推移するとみられる。また、県内の人手不足感は技術者を中心にますます強まる見込み。</p>
	


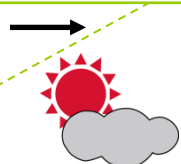
民間工事 : 住宅は持家の需要が底堅く推移する見込み

<p>現 況</p>	<p>民間企業の建設投資は、製造業で工場等の新設や増築が複数あり、堅調に推移した。新設住宅は、所得環境の改善に加え、消費税増税を見据えた動きがみられ、持家の引き合いが増加した。一方、貸家は相続税対策などの需要が落ち着き、分譲もマンションの新規着工がなく弱含んだことから、全体では前年の着工水準を下回る水準となった。資材価格や労務費の高止まりに対する販売価格への転嫁により、収益は改善傾向がみられた。ただ、現場代理人をはじめとした人手不足により、受注に対応できず施工体制を見直す事業者もあった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>民間企業の建設投資は、製造業では海外需要の見通しの変化から設備投資に慎重な姿勢がみられるが、工場等の新設を予定する企業もあり、安定した工事量を維持する見通し。新設住宅は、消費税増税後の国による税制優遇措置などを踏まえ、持家の需要が底堅く推移する見込み。貸家は相続税対策などの需要が落ち着いたことから引き続き低調な見通しとなるが、分譲はマンションの新規着工の予定があり、堅調に推移するとみられる。</p>
	


旅客 : 10連休により、例年以上の需要増加を期待

<p>現 況</p>	<p>貸切バスは、オフシーズンとなり利用客数は減少した。高速バスは、スキー関連の利用と首都圏や関西方面に向けた観光利用によりやや増加した。スキー場行きなどの観光路線バスは、外国人観光客を中心に年々人気が高まっており、利用が増加した。ドライバー不足のため路線バスの減便を実施した事業者もあった。タクシー利用者数は、通院、ビジネス利用等の昼間利用は暖冬のため例年をやや下回り、夜間利用は乗り控えにより減少した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>観光シーズンを迎えるほか、10連休を中心に例年以上の需要増加が期待される。高速バス利用者数は、観光利用、帰省利用ともに増加する見通し。ドライバー不足から、高速バスを増便するために貸切バスの受注を制限し、ドライバーを高速バスに振り替える動きも予想される。山岳観光地行きのバスは天候に左右されるものの、利用者数は増加する見通し。タクシー利用者数は、10連休に伴い病院や企業の休みが多くなることから、通院やビジネス利用の減少が見込まれる一方、観光利用の増加が期待される。</p>
	

貨物 : 製造業を中心に荷動きは引き続き堅調を見込む

<p>現 況</p>	<p>全体の荷動きは堅調だった。製造業の貨物量は、自動車部品や建機などの荷動きが活発で、前年並みを確保した。また、建材などで例年に比べ動きがみられたほか、食料品や飲料品も堅調だった。ただ、ドライバー不足から受注を制限する事業者もあった。庸車需要の増加から、庸車代が高止まりしたほか、ドライバーを定着させるための待遇改善などによる人件費の増加が収益を圧迫した。運賃値上げが徐々に進み、採算が改善した事業者もみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>全体の荷動きは引き続き堅調な推移を見込む。製造業は自動車部品を中心に前年並みの貨物量を確保する見通し。食料品や飲料品も例年並みと予想される。ドライバーの新規採用や待遇改善に向けた取り組みは継続して実施される見通しだが、ドライバー不足の改善には時間を要する見込み。庸車に依存する状況が続くことから、庸車代は高止まりが続くと予想される。</p>
	

ホテル・旅館 : 10連休を中心に宿泊利用の増加に期待

<p>現 況</p>	<p>ビジネス客の宿泊利用は都市部を中心に堅調に推移した。観光客による宿泊利用は、大規模な誘客イベントに乏しかったものの、天候に恵まれ例年並みを確保した。スキー場周辺のホテルや旅館では、雪不足の影響から国内スキー客による宿泊利用が伸び悩んだ地域もあった。スキーや観光を目的とした外国人観光客は、オーストラリアに加え、アジア諸国を中心に対前年で利用を伸ばした。新年会・歓送迎会シーズンであったが、宴会部門は件数・規模ともに例年並みで推移した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>10連休には例年以上に観光需要の高まりが期待される。予約の入りは例年よりも早く、宿泊利用は都市部・観光地ともに増加する見通し。中信地域を中心として、県内で初めて開かれる信州花フェスタの開催に伴う宿泊利用が見込まれる。一方で、10連休の反動から6月の利用状況を懸念する見方もある。外国人観光客は、アジア諸国からを中心に花見などを目的とした利用増が見込まれ、引き続き堅調に推移する見通し。需給に応じた価格の設定により、収益環境の向上が期待される。ブライダル部門は人気シーズンを迎え、前年並みを見込む。</p>
